

記念館とチャペルについて考えよう

～レンガの積み方の比較を通して～

対象は明治学院の学生と歴史的建造物に興味のある人たち。今回のツアーではレンガの積み方を通して、明治学院の歴史や建築の工夫について学んでいきます。



明治学院記念館

建設年: 1890(明治 23)年

明治学院チャペル
建設年: 1916(大正 3)年



●記念館とチャペル

東京都「特に景観上重要な歴史的建造物等」に指定されている記念館とチャペルの2棟はどちらもレンガ造りです。記念館はフランス積み、その26年後に竣工されたチャペルにはイギリス積みが用いられており、はっきりとその違いを確認することができます。

●記念館とフランス積み

明治学院の建物の中で、初めてレンガ造りで建設された建物です。フランス積みは明治初期に多く用いられました。1890年の竣工時には、2階までレンガで造られていましたが、1894年の地震によって2階部分が大破したため、その後2階が木造に改築され、現在の構造になりました。

●チャペルとイギリス積み

イギリス積みはフランス積みと比べて、作業時に繋ぎ目を伴わないこと、地震に強いことが特徴です。1914年に当時礼拝堂として用いられていたサンダム館が全焼し、新しい礼拝堂として急遽、現在のチャペルが建てられました。

●レンガ積み体験

擬レンガブロックを用意し、レンガ積みを体験する場を設けます。実際に経験することで、見るだけ、説明を受けるだけでは得られない発見ができるのではないのでしょうか。またその他にも、ドイツ積みやオランダ積み、アメリカ積みなどの積み方が存在します。興味のある方は、ぜひ調べてみてください。

